

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 6 月 15 日 (2006.6.15)

【公開番号】特開 2005-300186 (P2005-300186A)

【公開日】平成 17 年 10 月 27 日 (2005.10.27)

【年通号数】公開・登録公報 2005-042

【出願番号】特願 2004-112437 (P2004-112437)

【国際特許分類】

G 0 1 D 11/24 (2006.01)

G 0 1 L 19/08 (2006.01)

【F I】

G 0 1 D 11/24 D

G 0 1 L 19/08

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 4 月 21 日 (2006.4.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

特許文献 1 では、表示器を見やすい位置にするために、表示器が一体とされたカバーのケースに対する取付位置を変更するために専用工具等が必要である。取付位置を変更するには、一旦、ビス止めされたビスを専用工具を使用して取り外し、表示器の姿勢を変更して再度ビス止めしなければならない。特に、カバーとケースとは装置内への水の浸入を考慮すると、十分にビス止めしなければならない。このようなビスの取り外し、取り付け作業は時間がかかって面倒である。

特許文献 2 では、表示部本体に設けられた V 溝と、板ばねに形成された舌片とを備えて節度機構が構成されているため、節度機構を構成する V 溝や舌片の構造が複雑であり、これらの加工に手間がかかる。しかも、板ばねを中間継手の立ち上がり部に固定する構造であるため、中間継手が複雑な構造となる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 8】

プリント基板 5 は、差圧エレメント 4 で検出された圧力値を演算する回路が略円板状の板部 5 A に設けられたもので、その演算結果は表示部 6 に表示される。

板部 5 A には表示部 6 を操作するためのスイッチ 5 B が複数設けられている。板部 5 A の周縁部はケース 2 の開口端縁部と当接可能とされる (図 8 参照)。

表示部 6 はプリント基板 5 と電氣的に接続されており、プリント基板 5 で演算された圧力値を液晶表示するものである。

表示部 6 は平面矩形の薄板状に形成されており、プリント基板 5 の平面と平行に板部 5 A の上面に取り付けられている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 3 0 】

(7) ホルダ 7 の表面には物理量の単位が表示されているから、表示部 6 と近接した位置に単位が表示されることになり、検出値の読み取りを容易に行うことができる。

(8) 本実施形態では、係合部の爪部と溝部をそれぞれ等間隔に配置した 4 本としたから、表示部 6 の姿勢を 9 0 度毎に変更することができる。